4　国際交流

［概　要］

本館では，研究活動の国際性を拡充するべく，国際研究集会の開催や外国人研究員等の受入，本館研究者の海外派遣等を行っている。2019年度の具体的な取り組みは以下のとおりである。

１．国際戦略の制定

本館は博物館機能を有する大学共同利用機関としてのミッションを達成し，現代的視点と世界史的視野のもとに，日本の歴史と文化に関する研究を推進する国際拠点としての役割を果たすため，以下の国際戦略を制定している。この国際戦略に対応するかたちで，海外研究機関との学術交流協定等の締結，国際交流事業等の充実，外国人研究員等の受入，国際シンポジウムの開催等に取り組んだ。

（組織的な連携）

・海外の機関と組織的な連携を強化する。当面は，東アジア，ヨーロッパ及び北米を重点地域とする。

・日本歴史研究の国際的なネットワークを構築する。

（共同研究，成果発信）

・国際的な共同研究を推進し，成果の国際発信を強化する。

・展示，フォーラム，博物館資料の活用等を通じて国際共同研究の可視化，高度化を図る。

（若手研究者育成）

・協定機関との派遣・招へい等を通じて若手研究者の育成を図る。

２．学術交流協定等の締結

国立成功大学（台湾），ボーフム・ルール大学（ドイツ），国立慶北大学校人文学術院（韓国），アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター（米国）の４機関と新規に学術交流協定を締結した。

３．学術交流協定等に基づく国際交流事業等の充実

カナダ歴史博物館（カナダ）との「先住民に関する歴史表象と博物館展示についての比較研究」等９件の国際交流事業を推進した。ミュンヘン五大陸博物館（ドイツ）においては，国際連携展示「日本を集める―シーボルトが紹介した遠い東の国」（2019年10月11日～2020年４月26日　※新型コロナウイルスの影響で2020年３月14日から臨時休館。2020年５月12日再開。会期は2020年９月13日まで延長）を，ウィーン世界博物館（オーストリア）においては，国際連携展示「明治の日本―ハインリッヒ・フォン・シーボルトの収集品から」（2020年２月13日～2020年５月５日　※新型コロナウイルスの影響で2020年３月11日より臨時休館。2020年７月２日再開，会期は2020年８月11日まで延長）を，これまでの研究の成果をもとに開催した。

国立民俗博物館（韓国）とは，国際交流事業「日韓地域研究の実践的展開」を実施するとともに，国際企画展示「昆布とミヨク―潮香るくらしの日韓比較文化誌」（韓国2019年10月２日～2020年２月２日　日本2020年３月17日～５月17日　※新型コロナウイルスの影響により，日本での開催については中止）の両館での開催に際して，相互に惜しみない協力を行った。

４．外国人研究員等の受入，本館研究者の海外派遣

本館の受入制度に基づき，外国人研究員を１名，外国人招へい研究者を２名受け入れた。

５．国際シンポジウム等の開催

国際交流事業に基づくものとして，カナダ歴史博物館（カナダ）の協力を得て開催した国際シンポジウム「博物館と多文化社会―いかに博物館は多文化社会における対話の場となりうるか」（2019年10月26日・27日）を開催した。また，機関拠点型基幹研究プロジェクト「総合資料学の創成と日本歴史文化に関する研究資源の共同利用基盤構築」の一環として，歴史災害研究に特化した国際研究集会「デジタル化する歴史災害研究」（2019年７月20日　共催：東京大学地震研究所，東京大学史料編纂所，東京大学地震火山史料連携研究機構）を開催したほか，企画展示「ハワイ：日本人移民の150年と憧れの島のなりたち」とも関連する国際研究集会「ハワイ移民の「もう一つの歴史」を考える」（2019年12月21日）を実施するなど，本館の国際化と研究分野・研究手法の多角化を研究者コミュニティの内外に示すことができた。

なお，2020年３月には，３件の国際シンポジウム（「近現代東アジアの文化基盤」「ハインリッヒ・フォン・シーボルトが伝えた明治時代の日本」「海外で《日本展示》をおこなうこと」）の開催を予定していたが，新型コロナウイルスの影響により延期となった。

国際交流担当　　三上喜孝

［国際交流事業一覧］

	相手機関名	事　業　名	事業主体者
継続	カナダ カナダ歴史博物館	先住民に関する歴史表象と博物館展示についての比較研究	研究部 内田　順子
	韓国 国立民俗博物館	日韓地域研究の実践的展開	研究部 松田　睦彦
	韓国 国立釜山大学校博物館	国立歴史民俗博物館と釜山大学校博物館における研究者交流と展示協力	研究部 藤尾慎一郎
	台湾 国立台北芸術大学	博物館とモノを通じた文化への解釈と発信	研究部 西谷　大
	韓国 ソウル大学校	放射性炭素14年代の偏重分布―考古・物理・統計学的学際研究―	研究部 藤尾慎一郎
	台湾 国立台湾歴史博物館	日本と台湾からみた地域歴史像の解明	研究部 西谷　大
新規	韓国 国立中央博物館	先史～中世における日韓葬送儀礼の比較研究II	研究部 松木　武彦
	韓国 国立文化財研究所	国立文化財研究所との研究者交流事業	国際企画室長 西谷　大
	英国 グラスゴー博物館機構	スコットランドにおける日本歴史展示構築のための調査研究	研究部 日高　薫

（１）先住民に関する歴史表象と博物館展示についての比較研究 2014～2019年度

（事業主体者　内田順子）

１．目　的

「博物館スタッフと先住民のメンバーによる共同の博物館展示構築」という概念は，1980年代のアメリカであらわれた。この概念は現在，先住民を国民の構成メンバーとする様々な国の博物館に広く浸透している。カナダ歴史博物館（元カナダ文明博物館）もそのひとつである。カナダ歴史博物館は，先住民の歴史や文化を解釈する際に，より多くの先住民の参加を求め，民族学・考古学の博物館スタッフと先住民による委員会を発足し，2003年に先住民ホールをオープンした。歴博もまた，新しい第４展示室のアイヌ文化についての展示を構築する際，展示プロジェクト委員にアイヌ民族の参加を得て展示をつくることを実現した。先住民の歴史や文化についての展示を先住民の参加を得てつくりあげるという経験や，歴史叙述において先住民文化が担ってきた「イメージ」としての役割などについての研究成果を，本館とカナダ歴史博物館との研究交流を軸に共有し，そこからさらに，日本とカナダにおける関連する研究機関や博物館，大学，先住民コミュニティとのネットワークを形成していきたい。そのことによって，本館におけるアイヌ民族および北米先住民に関連する研究成果を日本内外に発信していく基盤を形成する。

２．今年度の研究計画

これまでの研究交流をふまえて，国際シンポジウムまたは国際研究集会を実施し，成果をとりまとめ，研究報告等により出版する。

３．今年度の研究経過

カナダ歴史博物館のアラン・エルダーと歴博の内田を中心に，2018年度の打ち合わせに基づき，国際シンポジウ

ムの準備を進めた。カナダとノルウェーからの報告者についてはカナダ歴史博物館が，日本と台湾については歴博が提案し，プログラムについては協議した。そして，これまでの研究交流をふまえて，2019年10月26日（土），27日（日）の両日，歴博にて国際シンポジウム「博物館と多文化社会―いかに博物館は多文化社会における対話の場となりうるか」を開催した。シンポジウムの報告書については，歴博の総合展示室へのシンポジウムの成果の反映のため，翌年度の出版に変更し，今年度可能な執筆・翻訳作業を進めた。

４．今年度の研究成果

シンポジウムでは，日本，カナダ，ノルウェー，台湾の各地域における，博物館スタッフと先住民族との協働による展示構築の成果や課題について，具体的事例に基づいて検討した。４地域それぞれの事例報告では，先住民族自身による報告をプログラムに入れることを必須とした。先住民族の声や経験を，博物館における諸活動のさまざまなプロセスにおいてどのように取り入れ，展示で展開するストーリーに必要な視点として反映していくのか，さらに，活動のプロセスを協働で行うことで作られた人と人との関係性をどのように展開していけるのか，ということをテーマとする本研究集会の問題意識を共有して対話を進めることにそれぞれが取り組んだ。本研究集会は,「協働」や「対話」について検討する場であると当時に，それらを実践する場でもあった点に特徴があり，成果であると言えよう。開催日前日の10月25日（金）は，千葉県地域は豪雨災害に見舞われ，シンポジウムの開催も危ぶまれた状態であったが，歴博周辺のバスが運休している状態の中，両日で115人（うち外国人13人）の参加があった。

５．事業組織（◎は事業主体者，○は副主体者）

◎アラン　エルダー　　カナダ歴史博物館・研究課長補佐
　ジョナタン　レネ　　カナダ歴史博物館・学芸員
　野本　正博　　公益財団法人アイヌ民族文化財団民族共生象徴空間運営本部・文化振興・体験交流部長
◎内田　順子　　本館研究部・准教授
○川村　清志　　本館研究部・准教授

（２）日韓地域研究の実践的展開 2015～2019年度
（事業主体者　松田睦彦）

１．目　的

本事業は，韓国国立民俗博物館と２期10年にわたって積み上げてきた研究交流実績を基礎としながら，本館が理念とする「博物館型研究統合」の実践例として，海をめぐる生活文化をテーマとした国際企画展示の共同開催をめざすものである。これまでの交流の過程において，本館と国立民俗博物館がともに博物館であるということをふまえ，今後，両機関の交流の成果が展示という形で公開されることが望ましいということで意見が一致した。そこで，第３期の交流となる本事業では，列島を形成する日本と半島を形成する韓国の双方の生活文化に大きな影響を与えてきたことが予想される「海」を具体的な対象として取り上げ，日韓の海をめぐる文化体系を比較する国際企画展示を両館で開催することを目指す。

２．今年度の研究計画

企画展示は，2019年10月２日～2020年２月２日の予定で韓国の国立民俗博物館において，2020年３月17日～５月17日の予定で歴博においておこなう。したがって，本事業の予算は，まずは韓国での展示をめざした準備作業にあてられる。具体的には，図録を共同で編集する作業や，演示をおこなうための旅費が見こまれる。その他，追加の調査も必要となる可能性がある。

３．今年度の研究経過

【韓国から日本】
2019年６月26日～29日：北海道函館市調査，青森県東通村資料収集（松田，昆，呉）
2019年７月31日～８月３日：韓国国立民俗博物館展示打合せ（松田）
2019年９月４日～10月４日：客員研究員として韓国派遣（松田）

４．今年度の研究成果

2019年６月には北海道函館市の朝市において昆布の販売にかかわる調査をおこない，青森県東通村においてはコンブ漁に使われたイソブネの収集にかかわる作業をおこなった。イソブネは韓国国立民俗博物館に輸送され，無事に展示された。７月末から８月上旬にかけては，韓国国立民俗博物館において展示設計や資料撮影等，展示にかかわる作業をおこなった。また，９月上旬から10月上旬にかけては，事業主体者の松田が韓国国立民俗博物館から客員研究員として一か月間招へいされ，図録制作や演示の作業にあたった。その後，2020年３月17日からの歴博での開幕に向けて準備を進めたが，新型コロナウィルス流行の影響により，展示は中止となった。本事業の経費によって，開幕式への韓国国立民俗博物館館長の招へいを予定していたが，中止された。

５．事業組織（◎は事業主体者，○は副主体者）

◎奇　　亮　国立民俗博物館・民俗研究課長
鄭　然　鶴　国立民俗博物館・学芸研究官
島立　理子　千葉県立中央博物館・主任上席研究員
松尾　恒一　本館研究部・教授
常光　　徹　本館研究部・名誉教授
◎松田　睦彦　本館研究部・准教授
○崔　銀　水　国立民俗博物館・学芸研究官
呉　昌　炫　国立民俗博物館・学芸研究士
川村　清志　本館研究部・准教授
○小池　淳一　本館研究部・教授

（３）国立歴史民俗博物館と釜山大学校博物館における研究者交流と展示協力 2017～2019年度
（事業主体者　藤尾慎一郎）

１．目　的

第２期の事業として実施した国際交流事業「日韓古代人骨の分析化学・年代学的研究と三国時代の実年代」(2010～2015年度）が終了した。釜山大学校博物館のメンバーが一新したこともあり，まずは研究者交流を通じて改めて互いの研究内容への理解を深めることで，新しい共同研究テーマを探すことを目的とする。展示に係る資料の貸借についても協力する。

本館では，2018年度の総合展示第１室リニューアルにおいて，日本列島の先史・古代文化を朝鮮半島との比較の中で展示することをひとつの目的としている。その際，釜山大学校博物館に対し，所蔵資料の長期借用を依頼する予定である。釜山大学校博物館もそれに対して前向きに検討している。

さらに釜山大学校博物館から資料借用の要請があった際には，本館側も積極的に検討していく。

２．今年度の研究計画

①研究者交流　両機関は互いに研究者１～２名を１～２週間派遣し，研究交流を促進し，2020年以降の事業について協議する。
②展示協力　　両機関の常設展示や企画展示の開催にあたって，相互に協力・連携を推進する。

３．今年度の研究経過

・藤尾慎一郎が2019年11月18日～11月28日まで，釜山大学校博物館において研究交流を行った。その中で，歴博総合展示第１室リニューアルと弥生時代研究に関する講義を，大学院生･学部生を対象に行った。また滞在中に釜山大学校博物館が所蔵する慶南勒島遺跡出土の弥生系土器の実測調査を行った。
・2020年１月28日～２月３日に，釜山大学校博物館の安星姫学芸研究士と釜山大学校考古学科の梁銀景教授が本館に１週間滞在し，研究交流を行った。東京大学博物館，東京国立博物館他，茨城・千葉県内の縄文時代貝塚の視察を行った。
・釜山大学校博物館の全面的な協力のもと，第１室リニューアルに際し，泗川勒島遺跡や蔚山玉峴遺跡などの出土資料を長期借用中（２年目）である。

４．今年度の研究成果

研究面については，勒島遺跡出土の弥生系土器の実測調査が大きな成果であった。外見的な特徴については弥生土器に似ているが，目に見えない製作技法については，韓半島の伝統的な技法を用いて作られていること確認している。このことは，弥生系土器を，韓半島の工人が作ったか，もしくは，韓半島の技術を習得した弥生人が作った

のか，どちらかの可能性を意味している。

また展示協力においては，引きつづき，第１室リニューアルに際し，日本列島における水田稲作のはじまりに関する重要な資料である蔚山玉峴遺跡，弥生時代後半期の日朝関係をしめす泗川勒島遺跡などの出土資料を借用中である。

今後とも研究者交流を深めながら，将来的には共通の研究テーマを見いだしていきたいと考えている。

５．事業組織（◎は事業主体者，○は副主体者）

○安　星　姫　　釜山大学校博物館・学芸研究室長
◎金　斗　喆　　釜山大学校博物館・館長
箱﨑　真隆　　本館研究部・特任助教　　山田　康弘　　本館研究部・教授
坂本　　稔　　本館研究部・教授　　齋藤　　努　　本館研究部・教授
○高田　貫太　　本館研究部・准教授　　◎藤尾慎一郎　　本館研究部・教授

（４）博物館とモノを通じた文化への解釈と発信 2017～2019年度

（事業主体者　西谷　大）

１．目　的

台湾の博物館業界で歴史・民族系博物館が重要視されているという背景のもと，台北芸術大学から要請を受け，2013年度から本館，国立台北芸術大学及び国立民族学博物館が共同で開催してきた研修会を引き続き開催する。

２．今年度の研究計画

本館教員３名を派遣し，研修会（３日間）を実施する。

３．今年度の研究経過

（2019年４月７日　於台湾）

国立台北芸術大学を訪問し，国際交流事業「博物館のモノを通じた文化への解釈と発信」に関する協議を行った。

訪問者：西谷，内田

４．今年度の研究成果

昨年度の協議の結果，2019年度の研修会テーマを「市と地域社会」とすることにし，2019年10月５日に桃園市大溪興福社区活動中心において研修会「従菜市場學歴史」を開催した。博物館関係者，大学生，地方の博物館行政関係者がおよそ40人参加した。具体的なテーマとして，「大衆生活，習俗，技術与記憶」を取り上げた。台湾と日本側とで，以下の発表を行った。

１．「逛逛大溪市場！」（桃園市大溪木芸生態博物館団体）
２．「従定期集市和環境利用所見民族文化及其生物多様性－以雲南省者谷為例」（西谷大）
３．「従日韓常設市場魚屋比較魚食文化－以東京与首爾為例」（島立理子　千葉県立中央博物館　主任上席研究員）

その後，実際に大溪の市場を，地元の方に紹介してもらいながら，市が地域の人々とどのような関係性のなかで維持されているのか調査を行った。

最後に，以下のメンバーと研修会全員参加による総合討論を行った。

黄　　貞燕　台湾国立台北芸術大学・副教授
陳　　倩慧　台湾桃園市大溪木芸生態博物館・館長
謝　　仕淵　台湾成功大学歴史学系・副教授
西谷　　大
島立　理子

討論のなかで，市場の基本は，もちろん経済活動が行わる場なのだが，そこには市を利用し生きる人々の生活誌が埋め込まれており，それを掘り起こすことで，市のもつ経済活動とは別の重要な働きを解き明かすことが可能になるのではという結論に至った。

5．事業組織（◎は事業主体者，○は副主体者）

陳　　佳利　国立台北芸術大学　文化資源学院　博物館研究所・教授
張　　婉真　国立台北芸術大学　文化資源学院　博物館研究所・教授
◎黄　　貞燕　国立台北芸術大学　文化資源学院　博物館研究所・副教授
○関沢まゆみ　本館研究部・教授　　松尾　恒一　本館研究部・教授
上野　祥史　本館研究部・准教授　　高田　貫太　本館研究部・准教授
◎西谷　　大　本館研究部・教授

（5）放射性炭素14年代の偏重分布―考古・物理・統計学的学際研究―
2018～2022年度
（事業主体者　藤尾慎一郎）

1．目　的

日韓の先史時代における炭素14年代を用いた共同研究を行い，その成果をデータベース（ソウル大学校にて作成予定），国際シンポジウム，国際展示として可視化・高度化する。

2．今年度の研究計画

二国間交流事業が不採択となったことで，新たな枠組み作りについて，ソウル大学校に赴き，金壯錫教授（昨年9月よりソウル大学校博物館長に就任）と議論する。DB（日韓先史時代炭素14年代測定値DB）の公開方法をめぐる議論が中心である。

3．今年度の研究経過

依然として金壯錫教授の本務が多忙を極めているために新たな枠組みづくりという目標を議論する場さえ，設けることが出来ず，そのため，共同研究などを開催することができなかった。

ただ，2018年度に外国人研究員として歴博で研究されたオ・ヨンジェ助教の研究成果を，2021年３月刊行予定の国立歴史民俗博物館研究報告に投稿し，現在，査読中である。

4．今年度の研究成果

昨年度に引きつづき，ソウル大学校側の代表である金壯錫教授が，博物館長になった関係で，当初予定していた計画を遂行することが基本的にできなかった。この点については先方と今後の国際交流事業の進め方について協議を行いたい。

5．事業組織（◎は事業主体者，○は副主体者）

李　昌　熙　　釜山大学校・教授
◎金　壯　錫　　ソウル大学校・教授
高田　貫太　　本館研究部・准教授　　箱崎　真隆　　本館研究部・特任助教
○坂本　　稔　　本館研究部・教授　　◎藤尾慎一郎　　本館研究部・教授

（6）日本と台湾からみた地域歴史像の解明
2018～2022年度
（事業主体者　西谷　大）

1．目　的

国立歴史民俗博物館と国立台湾歴史博物館は，これまで災害史を中心として，「資料に依拠する」という基本的な研究方法にそって，共同研究を行ってきた。

そこで災害史を継続課題とするとともに，資料研究の「歴博所蔵『高山族民俗資料』」，文献資料研究とフィールド研究をあわせもつ「近代の教育と植民地時代」，フィールド研究を通じた「日本と台湾の漁撈文化」，「民俗研究映像の制作・保存・共有」の４つのテーマについて共同研究を推進することを目的とする。

また，これまで共同研究を展開する上で，組織と研究者同士のネットワークが確立できたのだが，さらに双方の

研究者の交流を組織的に発展させることも目的の１つとする。

さらにモバイルミュージアムを台湾でも展開することで，可視化高度化事業，大学連携事業とも関連付けることを目指す。

２．今年度の研究計画

前年度に決定したとおり，近代にかかわるテーマに絞り込んで資料の調査をすすめ，あわせて企画展示（特集展示）の計画を前進させることとした。また，国立台湾歴史博物館だけでなく，国立成功大学も共同研究に参与してもらうため，国立成功大学と歴博の包括協定を締結し，三機関の連携を強化しつつ，展示だけでなく国立成功大学を会場とする国際研究集会の実施についても検討を行うこととした。

３．今年度の研究経過

(2019年４月８日　於：台湾)

前年度に，歴博会場と台湾史博会場で近代史にかかわる展示を行うことを決定したため，それをどのように実行するかについて話し合いを行った。あわせて国立成功大学も共催機関に加わること，これに伴い歴博と国立成功大学も，台湾史博同様に包括協定を締結して協働することを決定した。また，詳細な展示内容と展示の主題についても検討を行った。

訪問者：西谷，樋浦

(2019年８月４日～７日　於：台湾)

８月５日は国立成功大学，６日は国立台湾歴史博物館を会場に「近代東亜體育世界與身體：臺日體育交流」という国際研究ワークショップが開催され，樋浦が発表「運動会に関する素描」を行った。また，展示の主題と内容を具体的に詰める作業を行った。

訪問者：西谷，樋浦，小瀬戸，内田，久留島

(2019年10月20日～26日　於：歴博，野球殿堂博物館，筑波大学，早稲田大学)

歴博収蔵庫資料の調査，野球殿堂博物館，筑波大学，早稲田大学の資料調査を共同で実施した。

訪問者：陳怡宏（国立台湾歴史博物館）

(2019年11月20日～24日　於：台湾)

国立台湾歴史博物館において，国立成功大学および当館が共催する特集展示「東アジアを駆け抜けた身体（からだ）―スポーツの近代」にかかわる検討会および借受資料選定，撮影を実施した。

訪問者：西谷，小瀬戸，樋浦

４．今年度の研究成果

「資料に依拠する」という基本的な研究方法にそって，調査研究と議論を重ねながら，特に研究課題の１つである「近代の教育と植民地時代」についての研究成果を展示という形で可視化するために，具体的に研究を進展させることができた。2020年度に「東アジアを駆け抜けた身体（からだ）―スポーツの近代」と題する展示を，国立歴史民俗博物館と国立台湾歴史博物館に国立成功大学も加わり開催すること，展示の会場は歴博および台湾史博で実施することで合意した。また，展示と同時期に国際シンポジウムを開催する提案があり，引き続き調整を継続することとなった。

５．事業組織（◎は事業主体者，○は副主体者）

◎陳　怡　宏　国立台湾歴史博物館・研究組長
◎謝　仕　淵　国立成功大学・副教授
林　　能成　関西大学・教授
内田　順子　本館研究部・准教授
○樋浦　郷子　本館研究部・准教授
原山　浩介　本館研究部・准教授
小瀬戸恵美　本館研究部・准教授
松田　陸彦　本館研究部・准教授
川村　清志　本館研究部・准教授
久留島　浩　本館研究部・教授
◎西谷　　大　本館研究部・教授

（７）先史～中世における日韓葬送儀礼の比較研究II
2019～2021年度
（事業主体者　松木武彦）

１．目　的

学術交流協定締結機関である韓国国立中央博物館（以下，中央博）とは，平成21年度～平成24年度に第２期，平成27～平成30年度に第３期の共同研究を行い，総合展示第１室リニューアル事業に対する中央博側の協力を得ることができた。

ただ，共同研究の成果公開の中の論文集刊行は，未達成であり，かつもう少し共同研究を継続する必要性があることから，引き続き「先史～中世における日韓葬送儀礼の比較研究」をおこなうことにした。また，2020年度国際企画展示『加耶』を共催で開催することになり，その展示協力についても一層推進していくことにした。

２．今年度の研究計画

展示協力と，共同研究会とそれに関する現地調査を１，２回程度行う。

３．今年度の研究経過

【展示協力】

・中央博が2019年12月に開催する『加耶本性』展（2019年12月３日～2020年３月１日）のために，パネル作成や図録の分担執筆を行った。

高田貫太2019「日本列島における加耶系遺跡と遺物」『加耶，東アジア交流とネットワークの中心』韓国国立中央博物館

【共同研究】

・８月29日に中央博で開催された国際シンポジウム「加耶がつなぐ古代東アジアのネットワーク」に松木・高田が参加し，発表と討論を行った。

松木武彦2019「日本列島における古墳出現期の地域間ネットワーク」『加耶がつなぐ古代東アジアのネットワーク』韓国国立中央博物館

・中央博の2019年12月の展示開催に合わせて，中央博を訪問。また，2020年１月17日～18日にも松木，高田のほか５名が訪問。実際の展示を調査しながら，展示手法や内容についての研究会を開催し，かつ歴博の『加耶』展についての細部協議も行った。

４．今年度の研究成果

今年度は，2020年度国際企画展示『加耶』の展示内容や構成，借用遺物について，国立中央博物館と協議を重ねて，ほぼ確定することができた。また展示協力の中で，共同研究についても着実に行い，その成果を歴博の『加耶』展に反映させていくことにしている。

※しかしながら，新型コロナの影響により，2020年６月４日に歴博における『加耶』展の延期が決定した。

５．事業組織（◎は事業主体者，○は副主体者）

キム　ミギョン	国立中央博物館・学芸研究士	○ヤン　ソンヒョプ	国立中央博物館・学芸研究官
◎ホン　ジングン	国立中央博物館・考古歴史部長		
藤尾慎一郎	本館研究部・教授	山田　康弘	本館研究部・教授
上野　祥史	本館研究部・准教授	三上　喜孝	本館研究部・教授
○高田　貫太	本館研究部・准教授	◎松木　武彦	本館研究部・教授

（８）国立文化財研究所との研究者交流事業
2019～2020年度
（事業主体者　西谷　大）

１．目　的

本事業は当館と国立文化財研究所との学術交流協定にもとづき，研究者の交流を図るものである。

協定書の別表に「協定書第２条に基づく具体的な交流協力」として「研究者の交流」を掲げ，「毎年両機関は互いに研究者１～４名程度を相手機関へ最大２週間派遣し，相手機関の研究課題から１課題を選定の上，当該研究課題の研究会等に参加させるものとする」と定めていることから，これを国際交流事業として位置づけて実施する。研究者の相互受入に係る調整は，当館国際企画室と国立文化財研究所研究企画課を窓口として行い，双方の機関が組織的な連携を図る。

２．今年度の研究計画

互いに研究者１～４名程度を相手機関へ最大２週間派遣し，相手機関の研究課題から１課題を選定の上，当該研究課題の研究会等に参加させる。なお，航空賃は派遣側機関が負担し，派遣先での交通費・滞在費等は受入側機関が負担するものとする。

３．今年度の研究経過

派遣については，国際企画室による2019年８月の審議で当館教員を１名，2019年11月に派遣することを決定したが，その後派遣時期を2020年３月に変更したため，新型コロナウイルス感染拡大の影響により派遣を中止せざるを得なくなった。

受入れについては，韓国国立文化財研究所から１名を当初2020年１月，その後2020年３月受入れで調整していたところ，同様に新型コロナウイルス感染拡大の影響で先方から延期の連絡があったため，今年度の受け入れをやむを得ず中止することになり，国際企画室による2020年２月の審議で，翌年度に再度受け入れることのみを決定した。

４．今年度の研究成果

新型コロナウイルス感染拡大の影響により，今年度は予定していた派遣・受け入れともやむなく中止せざるを得なかった。

５．事業組織（◎は事業主体者，○は副主体者）

咸　喆　熙　国立文化財研究所・学芸研究士
崔　智　燕　国立文化財研究所・研究員
○洪　瑛　珠　国立文化財研究所・係長
◎金　三　基　国立文化財研究所・課長
荒木　和憲　本館研究部・准教授　　樋浦　郷子　本館研究部・准教授
○三上　喜孝　本館研究部・教授　　◎西谷　　大　本館研究部・教授

（９）スコットランドにおける日本歴史展示構築のための調査研究 2020～2022年度
（事業主体者　日高　薫）

１．目　的

グラスゴー博物館機構は，ケルヴィングローヴ美術博物館を中心に，グラスゴー周辺にある12の博物館や中央収蔵庫施設からなる組織である。日本政府が1878年に寄贈した1,150点の資料と，1901年の万国博覧会を機にそれ以降継続的に収集された日本資料約2,500点を所蔵する。

本事業においては，これらの日本資料（とくに1878年の日本側との交換寄贈資料）の概要調査をおこない，必要な情報を提供することにより，同館によって出版が計画されている館蔵日本コレクション目録の作成に向けて協力する。また，調査による資料情報の付与は，グラスゴー市郊外にある中央収蔵庫における収蔵展示に反映されるため，これにより現地での展示を通じた日本資料の活用を充実させることを目的とする。

２．今年度の研究計画

①客員教員三木美裕氏を含め国立歴史民俗博物館から２名の研究者を派遣し，グラスゴーをはじめとするスコットランドにおける日本美術関連資料の所在調査をすすめる。
②グラスゴー博物館機構が所蔵する日本関係資料の目録作成と日本資料収蔵展示の充実を目指して，資料情報を提供する。
③グラスゴーを中心とするスコットランド地域における日本文化理解と，日本研究活性化のための教育支援事業を

並行して推進する。

３．今年度の研究経過

①グラスゴー博物館機構中央収蔵庫の日本関係資料（陶磁器）をおこなった（2019年７月）。
②エディンバラ日本総領事館との連携により，オークニー島のスケイルハウスにおいて，お雇い外国人測量技師ヘンリー・シャボウの未公開絵日記（1878年）の予備調査をおこなった。（2019年７月）。
③2020年３月に実施予定であったグラスゴー博物館機構中央収蔵庫の日本関係資料調査は，新型感染症の感染拡大により中止せざるを得なかった。
④基幹研究在外プロジェクトとの連携による国際シンポジウム「海外において《日本》を展示すること」（2020年３月，ミュンヘン予定）で，三木が報告予定であったが，シンポジウム自体が延期された。

４．今年度の研究成果

1860～80年代，グラスゴーに日本コレクションが形成された経緯について，当時の学芸部長ペイトンに関する資料を中心に記録・蔵書・新聞記事などの文献資料調査をすすめ，未公開資料を発掘し，新知見を得た。

ケルヴィングローヴ博物館における常設展示への日本関係資料の展示，また同館における日本関係の特別展開催に関する打合せを進めた。

５．事業組織（◎は事業主体者，○は副主体者）

◎マーティン・ベラミー　グラスゴー博物館機構・研究部長
ユピン・チャン　グラスゴー博物館・学芸員
澤田　和人　本館研究部・准教授
福岡万里子　本館研究部・准教授
三木　美裕　本館・客員教授
○大久保純一　本館研究部・教授
◎日高　薫　本館研究部・教授

［国際シンポジウム］
「デジタル化する歴史災害研究」

会　場：東京大学地震研究所１号館２階　セミナー室A/B
会　期：2019年７月20日
参 加 者：47人（うち外国人２人）
主　催：国立歴史民俗博物館
共　催：東京大学地震研究所，東京大学史料編纂所，東京大学地震火山史料連携研究機構

１．開催趣旨

基幹研究プロジェクト「総合資料学の創成と日本歴史文化に関する研究資源の共同利用基盤構築」では，歴史研究における人文情報学的手法の深化と異分野連携研究の実現を目的のひとつとしている。歴史災害研究は自然科学と人文科学の融合領域として長年の蓄積を有すると同時に，デジタル化による研究環境の進化が近年目覚ましい分野でもある。総合資料学の手法を展開するモデル分野として，歴史災害研究は最適な性質を備えるものと言える。また，この分野では開発型共同研究「歴史災害研究のオープンサイエンス化に向けた研究」が総合資料学と連携を取りながら研究を進めている。

本研究集会では東京大学地震研究所および東京大学地震火山史料連携研究機構と共催し，地震を含む歴史災害研究における異分野連携とそこに人文情報学が果たす役割について，国内外の事例をもとに議論する。海外の先行事例については，イタリア国立地球物理学火山学研究所（INGV）から欧州の歴史地震史料データベースAHEADの構築に携わる研究者を招聘し，欧州における歴史学・災害研究・情報学の連携について知見を取り入れる。

２．開催内容

2019年７月20日（金）　13:00～17:00
13:00～13:10　開会・趣旨説明
13:10～14:20　マリオ・ロカティ（イタリア国立地球物理学火山学研究所）

基調講演「イタリア，欧州，そしてグローバルスケールの歴史地震データ管理 ―10年間の経験から得られた洞察―」
14:20～15:10　榎原雅治（東京大学史料編纂所，東京大学地震火山史料連携研究機構）
講演「地震研究のための歴史史料の情報化とネットワーク構築をめざして」
15:10～15:30　休憩
15:30～15:50　加納靖之（東京大学地震研究所，東京大学地震火山史料連携研究機構）
話題提供１「歴史地震研究と人文情報学ツール」
15:50～16:10　橋本雄太（国立歴史民俗博物館）
話題提供２「歴史地震研究における市民科学」
16:10～17:00　パネルディスカッション
17:00～17:10　閉会挨拶

３．総　括

歴史災害史料のデータベース化は災害研究の情報インフラを支える重要事業であり，また歴博の推し進める総合資料学にとっても重要な異分野連携研究の事例である。これまで日本でも既刊歴史史料のデータベース化が進められてきたが，いわゆるオープンサイエンスと呼ばれる近年の科学研究の情報インフラの急速な発展にはまったく対応できていないのが現状であった。

そこで本研究集会では，欧州全域を対象とする歴史地震データのアーカイブであるAHEADの構築を担当したイタリア国立地球物理学火山学研究所（INGV）のMario Locati氏を招聘し，AHEADの構築目的やシステムデザインについて詳細に解説頂いた。

また日本側の講演者として，東京大学史料編纂所・地震火山史料連携研究機構の榎原雅治氏に登壇頂き，同機構における災害史料のデータベース化についてご説明頂いた。これに続き，東京大学地震研究所の加納靖之氏，歴博の橋本より災害史料のデジタル化に関わる話題提供があった。

パネルディスカッションでは，日本国内の災害史料のデジタル化の方向性を再検討するとともに，特に人文情報学の分野において日欧で協力の可能性が検討された。特に，日本版AHEADの構築の可能性が示唆された。

「博物館と多文化社会―いかに博物館は多文化社会における対話の場となりうるか」

会　　場：国立歴史民俗博物館　講堂
会　　期：2019年10月26日・10月27日
参 加 者：115人（うち外国人13人）
主　　催：国立歴史民俗博物館
共　　催：カナダ歴史博物館

１．開催趣旨

博物館と先住民の協同・協働による展示構築」という概念は，1980年代の北米に生まれた。現在，住民を国民の構成メンバーとする国の博物館では，このコンセプトに基づいた展示が実施されている。本シンポジウムでは，カナダ，ノルウェー，台湾そして日本の博物館における経験や成果を共有することを通して，多文化社会における博物館の役割について，とくに，先住民の歴史や文化との関係で考察する。

２．開催内容

2019年10月26日（土）　13:00～16:15
＜開会＞
13:00～13:20　開会の挨拶
＜セッション１：カナダ・ノルウェー＞
13:25～13:55　ジョナタン・レネ（カナダ歴史博物館）
「新しいカナダ歴史ホールにおける先住民族の声」
14:00～14:30　ジスガング・ニカ・コリソン（ハイダ・グアイ博物館）
「Saahlinda Naay－モノをまもる家：Kay Llnagaayのハイダ・グアイ博物館」

14:30～14:45　休憩
14:50～15:20　ジェレミー・マクゴーワン（北ノルウェー美術館）
「内からの脱植民地化？ 北欧の博物館スペースのコロニアルな盲点をひらく」
15:25～15:55　マリット・ミルボル（ヴァルドバイキ・サーミ博物館）
「私たち自身のイメージで：博物館におけるサーミ文化遺産の展示」
15:55～16:15　質疑応答

2019年10月27日（日）　13:00～16:15
＜平取アイヌ文化保存会によるアイヌ古式舞踊とマンローフィルムの紹介＞
11:00～11:45　内田順子（国立歴史民俗博物館）
「マンローフィルムと二風谷のアイヌ文化」
貝澤耕一（平取アイヌ文化保存会）
「平取アイヌ文化保存会によるアイヌ古式舞踊」
＜セッション２：台湾・日本＞
13:05～13:35　謝仕淵（成功大学）
「多様な民族と国家の歴史との対話：国立台湾歴史博物館の常設展示を事例として」
13:40～14:10　潘顯羊（原住民族文化発展センター）
「台湾原住民族の地域博物館は何を行い何をしようとしているのか？
―2018年の『台湾全国における原住民族の地域博物館展』の展示内容を事例として―」
14:10～14:25　休憩
14:30～15:00　野本正博（旧アイヌ民族博物館）
「アイヌ民族博物館の軌跡　1964-2018」
15:05～15:35　齋藤玲子（国立民族学博物館）
「交流の場をめざして―現代のアイヌ文化を展示する試み」
15:35～15:50　質疑応答
15:50～16:20　討論
16:25～16:30　閉会の挨拶
司会【セッション１】アラン・エルダー（カナダ歴史博物館）
　　【セッション２】川村清志（国立歴史民俗博物館）
総合司会　　内田順子（国立歴史民俗博物館）

３．総　括

本研究集会では，日本，カナダ，ノルウェー，台湾の各地域における，博物館スタッフと先住民族との協働による展示構築の成果や課題について，具体的事例に基づいて検討した。４地域それぞれの事例報告では，先住民族自身による報告をプログラムに入れることを必須とした。これによって，先住民族の「声」の何を，どのように，博物館活動の中でとりあげることができるのか，そして，活動のプロセスを協働で行うことで作られた人と人との関係性をどのように展開していけるのか，ということをテーマとする本研究集会の問題意識をはっきり示すことができた。報告者からも本研究集会の中で指摘されたことだが，先住民族と博物館活動についてのこうした研究集会は数多く開催されているが，そこに招かれるのは多くの場合，社会的・民族的多数派に属する研究者であり，今回のように，国立の博物館が連携して各地域から先住民族を報告者として招き，対話をしていこうという試みは，ほとんど行われていない。「協働」や「対話」という言葉を用いることは容易く，流行りでもあるが，実質を伴った実践は，それほど簡単なことではない。その意味で，本国際研究集会は，「協働」や「対話」について検討する場であると当時に，それらを実践する場でもあった点に特徴があり，成果でもあると言える。

［国際研究集会］
「ハワイ移民の「もう一つの歴史」を考える」

会　　場：国立歴史民俗博物館大会議室
会　　期：2019年12月21日

参 加 者：29名（うち外国人１人）
主　　催：国立歴史民俗博物館

１．開催趣旨

この研究集会では，「プランテーション後」のハワイの日本人移民・日系人の置かれた状況を多角的に検討する。

ハワイの日本人・日系人は，1920年代には人口比において最多数を占めるようになった。この頃には，日本人移民・日系人が経営する商店が建ち並ぶなど，街頭に「日本」の姿が目立つようになった。この，ハワイに日本人移民・日系人が定着するまでの過程，およびその後の「日本人町」の形成過程に注目し，「プランテーション後」の展開を検討する。

これに加えて，日本人移民・日系人とともに，近代のハワイを構成した人びと，とりわけ日本人と前後してハワイに移住した中国人・フィリピン人・朝鮮人の存在を踏まえておく必要がある。ハワイの人種的多様性の形成過程においては，相互の分断や緊張関係があり，当時のハワイ大学の研究者たちは，その行く末がどうなるのかを，「実験場」としてまなざしていた。この点についても，この研究集会の中で触れておきたい。

以上を通じて，主として1920年代～30年代のハワイをめぐり，日本人移民・日系人を軸にトータルなイメージを構築することにしたい。

２．開催内容

2019年12月21日（土）　13:00～16:30

挨拶，趣旨説明

報告１

Dennis M. Ogawa（デニス・オガワ）

（ハワイ大学マノア校 教授，Hawaii Times Photo Archives Foundation 代表）

Who Were the Hawaii Issei : Focusing on the 1920-30

（ハワイの「一世」とは？：1920～30年代を中心に）

報告２

上田薫（スタンフォード大学フーヴァー研究所ジャパニーズ・ディアスポラ・コレクション キュレーター）

日布時事フォト・アーカイブスにみる日系人

報告３

飯田耕二郎（元 大阪商業大学 教授）

ホノルルにおける日本人町の形成

報告４

原山浩介（国立歴史民俗博物館 准教授）

ハワイの人種的多様性と日本人移民・日系人

閉会挨拶

３．総　括

本研究集会の成果は，次の二点に集約できる。まず第一に，ハワイにおける移民史研究，日本の移民史研究，デジタルヒューマニティーズの，それぞれ異なるパースペクティブからの報告を検討し，ハワイの移民史研究が持つ日本中心主義的な設定を相対化できたこと，しかもその上で必要とされるのが単なる相対主義ではなく，日本人移民がたどった過程の固有性を十分に踏まえながらのグローバルな視野からの歴史認識が必要であることが浮き彫りになったことがある。第二に，デジタルヒューマニティーズの多様な可能性を示すことができ，またこれまであまり注目されていなかったポストプランテーション時代の日系人の生活模様をくみ取る上で重要な役割を果たしたことが，展示はもとより，飯田氏による報告のなかで明らかになった。

一点目は，グローバルな視野からの歴史理解を要請するものであり，二点目は，実証研究と資料の関係のなかでデジタルヒューマニティーズがどのように機能し，その限界と新たな課題の創出がどのようにもたらされるのかを示すことにつながったといえる。

［外国人研究員］

氏　　名	所　　属	研究課題	期　間
ベ　ジンソン （裵　眞晟）	韓国釜山大学校	北東アジアにおける青銅器時代の副葬習俗の研究	2019.9.1～ 2020.2.29

［短期招へい外国人研究者］

氏　　名	所　　属	研究課題	期　間
ペク　スンオク （白　承玉）	韓国国立海洋博物館	広開土王陵碑文拓本の製作年代に関する研究	2019.5.1～ 2019.7.29
エレン　ルイーズ ガードナー	ニュージーランドオークランド大学	19世紀を通した近代化過程のなかでの医者の有り様について	2019.10.31～ 2019.11.21
ショウ　コニシ	イギリスオックスフォード大学	日本における国際的博愛団体の誕生－その認識論的起源に関する考察	2019.9.9～ 2019.10.4

［協定締結機関との交流］

招　聘			
氏　名	所　属	用　　務	期　間
呉　昌炫 （オ チャンヒョン）	韓国 国立民俗博物館	コンブ漁具に関する調査	2018.6.26～ 2018.6.29
Nikki　van Rosmalen Killian Stark	ベルギー ルーヴェン・カトリック大学文学部	歴博・ルーヴェン大学共同ワークショップへの参加	2019.9.2～ 2019.9.8
Benjamin Wolfs			2019.9.3～ 2019.9.8
陳　怡宏	台湾 国立台湾歴史博物館	国際交流事業「日本と台湾からみた地域歴史像の解明」に係る調査	2019.10.20～ 2019.10.27
アラン・エルダー ジョナタン・レネ	カナダ カナダ歴史博物館	歴博国際シンポジウム「博物館と多文化社会―いかに博物館は多文化社会における対話の場となりうるか」への参加および講演	2019.10.24～ 2019.10.29
謝仕淵（Shi-Yuan Xie）	台湾 国立成功大学		2019.10.25～ 2019.10.29
Luc SelsAn Descheemaeker	ベルギー ルーヴェン・カトリック大学	デジタル・ヒューマニティーズ事業にかかる協議，表敬	2019.11.16
Dimitri VanoverbekeJan Schmidt			2019.11.16～ 2019.11.17
河　度慊 （ハ　トギョム）	韓国 国立民俗博物館	展示打合せ	2019.11.18～ 2019.11.20
Kornelia Freitag	ドイツ ボーフム・ルール大学	協定調印式および両機関の意見交換	2019.11.27～ 2019.11.28
李暎澈 （イ　ヨンチョル）	韓国 大韓文化財研究院	展示調査，展示内容についての研究会及び第３回共同研究会	2019.12.25～ 2019.12.29
林智娜（イム　ジナ） パク　ジノ クム　ヒョンフン ジョン　スリム カン　ミョンソク キム　ナクヒョン ムン　サンソン			2019.12.26～ 2019.12.29
梁　銀景 （Yang Eun-Gyeng）	韓国 釜山大学校	釜山大学校博物館との国際交流事業による研究者交流	2020.1.28～ 2020.2.3
安　星姫 （Ahn Sung-Hee）	韓国 釜山大学校博物館		
鄭然鶴	韓国 国立民俗博物館	展示プロジェクト「昆布とミヨク」に係る展示作業および打合せ	2020.3.4～ 2020.3.8

派　遣　※協定機関における用務を抜粋			
氏　名	行　先	用　　務	期　間
西谷　大 内田　順子	台湾 国立台北芸術大学 国立台湾歴史博物館	国際交流事業「博物館のモノを通じた文化への解釈と発信」と「日本と台湾からみた地域歴史像の解明」の研究活動に関わる協議	2019.4.6～ 2019.4.10
樋浦　郷子	台湾 国立成功大学 国立台湾歴史博物館	台湾史博との共催展示にかかる打合せ／基幹共同研究にかかる調査／2019年度第１回共同研究会	2019.4.6～ 2019.4.10
吉井　文美	台湾 国立台湾歴史博物館	近代展示リニューアル調査	2019.4.7～ 2019.4.13
松田　睦彦	韓国 国立民俗博物館	韓国国立民俗博物館における打合せ	2019.4.14～ 2019.4.17
三上　喜孝	韓国 国立ハングル博物館	韓国前近代における文字資料と儀礼についての調査と打合せ	2019.5.4～ 2019.5.6
久留島　浩	韓国 国立中央博物館 国立ハングル博物館	日韓の歴史教科書及び博物館歴史展示に係る研究セミナー出席および展示・資料調査	2019.5.21～ 2019.5.24
三上　喜孝	韓国 国立ハングル博物館	韓国前近代における文字資料についての調査と研究打合せ	2019.5.22～ 2019.5.23
後藤　真	台湾 国立台湾歴史博物館	ワークショップの事前打合せ，International Workshop on Spatiotemporal Knowledgeにおける発表および情報収集	2019.5.28～ 2019.5.31
高田　貫太	韓国 大韓文化財研究院	基盤研究「古墳時代・三国時代の日朝関係における交渉経路と寄港地に関する日韓共同研究」第１回共同研究会と資料調査，遺跡踏査	2019.6.5～ 2019.6.9
山田　慎也	オーストリア ウィーン世界博物館	「日本関連在外資料調査研究・活用」プロジェクトにおける資料調査ウィーン世界博物館における日本関連資料の調査	2019.6.22～ 2019.6.30
澤田　和人		在オーストリア日本資料調査	2019.6.23～ 2019.6.30
日高　薫			2019.6.23～ 2019.7.6
青柳　正俊			2019.6.30～ 2019.7.7
三木　美裕	イギリス グラスゴー博物館機構	「日本関連在外資料調査研究・活用」プロジェクトに係る資料調査，打合せ	2019.7.22～ 2019.8.6
松田　睦彦	韓国 国立民俗博物館	昆布展にかかわる打合せ	2019.7.31～ 2019.8.3
小瀬戸　恵美	台湾 国立台湾歴史博物館 国立成功大学	国立成功大学との学術交流協定締結式出席，日本と台湾の体育交流特別展示企画ワークショップ出席	2019.8.4～ 2019.8.7
西谷　大 内田　順子		国立成功大学との学術交流協定締結式出席，日本と台湾の体育交流特別展示企画ワークショップ出席，屏東地域・台東地域の視察および調査	2019.8.4～ 2019.8.10
久留島　浩			2019.8.5～ 2019.8.10
樋浦　郷子	台湾 国立台湾歴史博物館国立成功大学	国立台湾歴史博物館および国立成功大学主催の学術検討会における発表，代表科研19K02493にかかわる調査・打合せ	2019.8.4～ 2019.8.10
松田　睦彦	韓国 国立民俗博物館	共催企画展のための準備	2019.8.6～ 2019.8.9
			2019.8.16～ 2019.8.20
福岡　万里子	ドイツ ボーフム・ルール大学	プロセイン東アジア政策関係史料調査，シーボルト関係史料調査・打合せ，シュルヒテルン市史に関する展示調査	2019.8.17～ 2019.9.7
高田　貫太	韓国 大韓文化財研究院	韓国大韓文化財研究院との学術交流協定に基づく共同研究の打合せ並びに資料調査	2019.8.20～ 2019.8.24
松木　武彦 高田　貫太	韓国 国立中央博物館	韓国国立中央博物館主催国際学術大会への参加	2019.8.28～ 2019.8.30

氏　名	所　属	用　　務	期　間
松田　睦彦	韓国 国立民俗博物館	共催企画展のための準備	2019.9.4～ 2019.10.3
横山　百合子	アメリカ 国立アメリカ歴史博物館	プラン下文庫所資料の調査と撮影，および国立アメリカ歴史博物館における展示と博物館運営にかかわるジェンダー政策についての調査	2019.9.6～ 2019.9.10
藤尾　慎一郎	韓国 国立釜山大学校博物館	特別展「古代の色，漆」展見学，釜山大学校博物館所蔵人骨調査の打合せ，東亞大学校博物館保管慶北完山洞古墳出土人骨のDNA，年代測定用試料の採取	2019.9.8～ 2019.9.11
松木　武彦 高田　貫太	韓国 国立文化財研究所 大韓文化財研究院	韓国国立羅州文化財研究所ならびに大韓国文化材研究院における資料調査	2019.9.19～ 2019.9.22
荒木　和憲	韓国 国立民俗博物館	企画展示「昆布とミヨク」展にかかる展示作業	2019.9.24～ 2019.9.25
久留島　浩	韓国 国立民俗博物館 国立中央博物館	企画展示「昆布とミヨク」展にかかる表敬訪問・オープニングセレモニー出席	2019.9.30～ 2019.10.2
鈴木　卓治	韓国 国立民俗博物館	「昆布とミヨク」展に係る打合せのため	2019.10.1～ 2019.10.3
西谷　大	台湾 国立台北芸術大学	研修会「国立臺北芸術シリーズ第５回：市場から地域の歴史を学ぼう（２）:生活，習俗，テクニックと記憶」への出席	2019.10.4～ 2019.10.7
久留島　浩	ドイツ ミュンヘン五大陸博物館	ミュンヘン五大陸博物館シーボルト展開会式への出席，資料調査	2019.10.9～ 2019.10.13
日高　薫	ドイツ ミュンヘン五大陸博物館 オーストリア ウィーン世界博物館		2019.10.9～ 2019.10.20
高田　貫太	韓国 大韓文化財研究院	科研「朝鮮半島西南部の前方後円墳をめぐる倭と馬韓の交渉史」の第２回共同研究会および資料調査，遺跡踏査	2019.10.9～ 2019.10.14
小島　道裕	韓国 国立民俗博物館国立ハングル博物館	国立ハングル博物館が主催する国際シンポジウムへの参加および共同研究成果報告出版に関する打合せ	2019.10.15～ 2019.10.17
橋本　雄太	韓国 国立ハングル博物館	The International Conference for Museums of Language & Writing 2019　の出席および研究発表	2019.10.15～ 2019.10.17
天野　真志	ベルギー ルーヴェン・カトリック大学文学部	The 10th Anniversary Kobe University Brussels European Centre Symposiumへの出席と情報収集，資料データシェアのワークショップへの参加と情報収集	2019.10.20～ 2019.10.25
後藤　真		The 10th Anniversary Kobe University Brussels European Centre Symposiumへの出席と情報収集，資料データシェアのワークショップへの参加と情報収集，展示に関わる打合せ	2019.10.20～ 2019.10.26
松田　睦彦 田中　大喜	韓国 国立民俗博物館	共催企画展の打合せ及び展示替え	2019.11.7～ 2019.11.8
藤尾　慎一郎	韓国 国立釜山大学校博物館	国立歴史民俗博物館と釜山大学校博物館における研究者交流と展示協力。授業１コマ。	2019.11.18～ 2019.11.28
西谷　大 小瀬戸　恵美	台湾 国立台湾歴史博物館	特集展示（国際展示）「近代東アジアのスポーツ世界と身体」に関する資料調査および展示打合せ	2019.11.20～ 2019.11.23
樋浦　郷子		国際研究集会打合せおよび調査	2019.11.20～ 2019.11.24
松田　睦彦	韓国 国立民俗博物館	シンポジウムへの参加および機構共同研究「地域における歴史文化研究拠点の構築」への参加	2019.11.28～ 2019.12.1
小池　淳一 川村　清志 葉山　茂			2019.11.29～ 2019.12.1
高田　貫太	韓国 国立中央博物館	韓国国立金海博物館・中央博物館企画の展示調査	2019.11.29～ 2019.12.3
久留島　浩	韓国 国立中央博物館	特別展「加耶本性」にかかる展示視察・開幕式出席	2019.12.1～ 2019.12.3

氏　名	所　属	用　　務	期　間
三上　喜孝	韓国 国立民俗博物館 国立中央博物館 ソウル大学校博物館	韓国前近代における文字資料についての資料調査	2019.12.7～ 2019.12.8
田中　大喜	韓国 国立民俗博物館	昆布展にかかわる打合せおよび展示替え	2019.12.10～ 2019.12.12
松田　睦彦			2019.12.10～ 2019.12.15
村木　二郎	韓国 国立民俗博物館	日韓交流史の研究調査	2019.12.10～ 2019.12.12
西谷　大	韓国 国立民俗博物館	「昆布とミヨク」展示見学および打合せ	2019.12.13～ 2019.12.15
松田　睦彦 田中　大喜	韓国 国立民俗博物館	昆布展にかかわる打合せおよび展示替え	2020.1.9～ 2020.1.10
吉井　文美	韓国 国立民俗博物館	企画展示「ハワイ：日本人移民の150年と憧れの島のなりたち」の借用資料返却，および第５室リニューアルに関する資料調査	2020.1.14～ 2020.1.15
松木　武彦 仁藤　敦史 上野　祥史 高田　貫太	韓国 国立中央博物館	韓国国立中央博物館との展示協力に関する打合せおよび共同研究会	2020.1.17～ 2020.1.18
村木　二郎	韓国 国立民俗博物館	日韓交流史の研究「昆布とミヨク」展展示調査	2020.2.2～ 2020.2.4
荒木　和憲		国際連携展示「昆布とミヨク」展の撤収作業	2020.2.2～ 2020.2.4
松田　睦彦		昆布展閉幕にともなう資料梱包作業	2020.2.2～ 2020.2.7
高田　貫太	韓国 大韓文化財研究院	韓国栄山江流域（羅州地域）の古墳文化の調査	2020.2.9～ 2020.2.11
久留島　浩	オーストリア ウィーン世界博物館	「明治時代の日本」展オープニングレセプションへの出席および展示視察，ELTE大学・ハンガリー国立博物館との協定締結に係る打合せ，ブダペスト日本文化センター主催「江戸時代探求」講義および調査	2020.2.11～ 2020.2.17
日高　薫			
三木　美裕	イギリス ダラム大学 グラスゴー博物館機構 スコットランド国立博物館	日本関連在外日本資料調査研究・活用事業にかかる打合せ，資料調査等	2020.2.15～ 2020.2.22

［海外派遣］

氏　名	行　先	用　　務	期　間
共同研究			
川村　清志	アメリカ	日系移民に関わる資料調査と展示打合せ	2019.5.30～ 2019.6.7
後藤　真	タイ	コンケン大学における清潔と洗浄に関する現地調査（文献調査含），デジタル保存に関するワークショップ他	2019.7.20～ 2019.7.27
科学研究費補助金			
藤尾　慎一郎 高田　貫太	韓国	所蔵人骨の年代測定およびDNA調査	2019.5.14～ 2019.5.16
松田　睦彦	韓国	釜山国際水産物卸売における水産物の輸出入調査	2019.5.14～ 2019.5.16
坂本　稔	アメリカ	第９回放射性炭素と考古学国際シンポジウムにおける研究成果の報告	2019.5.19～ 2019.5.26
松田　睦彦	中国	研究会への参加および木造船調査	2019.5.31～ 2019.6.4

氏　名	行　先	用　　務	期　間
橋本　雄太	カナダ	DHSI（Digital Humanities Summer Institute）2019への参加	2019.6.1～2019.6.9
松尾　恒一	中国	中国南部の民俗宗教・信仰調査	2019.6.29～2019.7.3
後藤　真	オランダ	Digital Humanities Conference 2019における発表および情報収集	2019.7.8～2019.7.14
松尾　恒一	中国	中国香港海域の民俗宗教・信仰調査	2019.8.3～2019.8.6
高田　貫太	韓国	「朝鮮半島西南部の前方後円墳をめぐる倭と馬韓の交渉史」の共同研究会（2019年度第１回）と全羅南道地域の遺跡踏査	2019.8.7～2019.8.10
松尾　恒一	中国	中国広西省少数民族および広東省の先祖祭祀を中心とする民俗調査	2018.8.10～2018.8.15
日高　薫	ドイツ	在ドイツ日本資料調査	2019.8.21～2019.8.30
松尾　恒一	タイ	「日本仏教と東南アジア仏教との比較研究－政治と権力の視点を中心として」のためのタイにおける民俗宗教調査	2019.8.27～2019.9.2
山田　慎也	スウェーデン	スウェーデンにおける葬送と死後悲嘆に関する調査	2019.9.27～2019.10.7
後藤　真	シンガポール	2019 Pacific Neighborhood Consortium Annual Conference and Joint Meetingsへの出席と情報収集	2019.10.14～2019.10.19
亀田　尭宙	マレーシア	INTERNATIONAL FORUM 2019 CROSSROADS OF SCIENCES ON KNOWLEDGE, INFORMATION AND DATA 21st ICADL, 9 th A-LIEP & iSCHOOLSへの参加及び発表	2019.11.2～2019.11.8
吉井　文美	アメリカ	研究を遂行するうえで必要な資料の収集と講演会の打合せ	2019.11.8～2019.11.27
日高　薫	フランス	18～19世紀にフランスにもたらされた日本関連資料の調査	2019.11.28～2019.12.4
樋浦　郷子	韓国	代表科研19K02493にかかわる調査	2019.11.29～2019.12.7
澤田　和人	アメリカ	日本染織品の調査研究および野村正治郎の遺品の整理者であるシンシア・シェーバー氏への聞き取り調査を行う	2019.12.8～2019.12.17
亀田　尭宙	アメリカ	LODLAM Summit 2020およびInternational Terminology Working Groupの研究集会への参加	2020.1.31～2020.2.10
藤尾　慎一郎	韓国	大邱達城村里遺跡出土人骨の年代測定及びDNA調査	2020.2.12～2020.2.14
亀田　尭宙	ジャカルタ	インドネシアの泥炭災害問題と地域・歴史・文化・政治の関係に関する研究ミーティング	2020.2.23～2020.2.28
松木　武彦	メキシコ	新学術領域研究「出ユーラシアの統合的人類史学」に関わる研究集会への参加及び情報収集，新学術領域研究「集団の複合化と戦争」に関わる資料調査及び研究打合せ	2020.2.25～2020.3.2
上野　祥史	メキシコ	国際研究集会への参加と関連遺跡調査	2020.3.25～2020.3.4
機構基幹研究プロジェクト			
原山　浩介	アメリカ	日系移民に関わる資料調査と展示打合せ	2019.5.30～2019.6.7
その他の調査・研究・学会・シンポジウム等			
松尾　恒一	中国	四川大學俗文化所にて日中の仏教をテーマとする研究会への出席，四川省乐山市における伝統の竹紙作りを中心とする民俗調査	2019.4.28～2019.5.3
坂本　稔	韓国	慶北氷川完山洞古墳出土人骨の調査と採取	2019.9.9～2019.9.11

氏　名	行　先	用　　務	期　間
後藤　真	ブルガリア	第30回日本資料専門家欧州協会年次大会「日本学資料の再考」への出席・研究発表と情報収集	2019.9.16～2019.9.23
橋本　雄太 川邊　咲子			2019.9.16～2019.9.24
吉井　文美	台湾	研究に必要な資料調査	2019.9.22～2019.9.25
原山　浩介	アメリカ	企画展示「ハワイ：日本人移民の150年と憧れの島のなりたち」資料集荷	2019.10.6～2019.10.10
吉井　文美	韓国	展示資料の借用のため	2019.10.14～2019.10.15
原山　浩介	アメリカ	企画展示「ハワイ：日本人移民の150年と憧れの島のなりたち」資料集荷	2020.1.23～2020.1.27
川邊　咲子	アメリカ	LODLAM Summit 2020およびInternational Terminology Working Groupの研究集会への参加	2020.2.2～2020.2.9
松尾　恒一	アメリカ	日本人・華人のハワイ移民の歴史と民俗調査	2020.2.12～2020.2.20
吉村　郊子	ナミビア	「近代化と周縁地域における住居・土地資源利用の変遷に関する研究」にかかわる調査	2020.2.21～2020.3.21
三木　美裕	アメリカ	日本関連在外日本資料調査研究・活用事業にかかる打合せ，資料調査等	2020.3.9～2020.3.26（土日を除く）
他の研究機関の依頼による海外調査・研究等			
柴崎　茂光	ブータン	高齢化健康志向時代における自然歩道システムの役割とその再構築	2019.8.16～2019.8.27
川村　清志 天野　真志 葉山　茂	台湾	国際フォーラム「地域文化を活用する－地域復興，地域活性に果たす役割」での発表及び意見交換	2019.10.29～2019.11.2
高田　貫太	韓国	国際学術大会「咸平禮徳里古墳群の学術的価値と位相」への参加と発表	2019.11.7～2019.11.10
澤田　和人	ドイツ	機構基幹研究プロジェクト「ヨーロッパにおける19世紀日本関連資料の調査と活用」の一環として，ロイトリンゲン大学所蔵のベルツ・コレクションの調査およびシンポジウムへの参加	2019.11.10～2019.11.17
松尾　恒一	中国	中山大学・王霄冰教授代表科研「海外，中国民俗資料の収集・研究とデータベースの構築)」研究会への出席	2019.11.18～2019.11.20
川村　清志	タイ	輪島市門前町の出郷者の映像ドキュメンタリーのための予備的調査ならびに，アジアの市場における魚介類の利用に関する予備的調査	2019.12.27～2019.12.31
荒木　和憲	台湾	史料調査のため	2020.1.13～2020.1.15
吉井　文美	アメリカ	Yale MacMillan Center, Council on East Asian Studiesにおける講演，資料調査及び研究交流	2020.2.5～2020.3.1